

[2番 道川綿未さん登壇]

○2番(道川綿未さん) 道川綿未と申します。今日は、島田市の移住・定住施策と中山間地域のインバウンドに関して伺いたします。よろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして質問いたします。

現在、全国的にも地域活性化の手段として移住定住促進の施策が進められております。私も島田市に移住して4年目となりますが、移住・定住後に地域のコミュニティとどのように関わっていけるかが大事なのではと感じております。

幸い、私は地域おこし協力隊という形で移住したことに加え、近隣の方にも恵まれたおかげで、スムーズに地域の方と関わりを深めていくことができました。しかし、今後増えるであろう移住者のためにも、きちんとした受け入れの仕組みが必要ではないかと思えます。同じ島田市の中でも各地区によって独自のルールや文化などがあり、なかなか明文化することが難しいこともあると思えますが、日々を暮らしていく中で移住者と地域住民がお互いにボタンのかけ違いにならないようにすることが必要ではないかと思えます。

それでは、通告に従いまして質問いたします。

1つ目の質問ですが、(1)島田市への移住を促進する目的・目標について改めてお聞かせください。

次に、(2)移住後に地域コミュニティと関わっていく上で、地域側としてはどのような支援・受入体制が整っているのでしょうか。また、どのような受入体制が必要だとお考えでしょうか。

最後に、(3)他地域では移住者を巻き込み積極的にまちづくりに関わってもらい、地域住民とともに地域活性化の一端を担っている例があります。島田市でもそのような流れをつくっていくために、行政の役割をどのようにお考えでしょうか。

2つ目は、島田市のインバウンドに関する質問です。

現在、インバウンド市場が爆買ブームから、個人旅行客の長期滞在型へ移行しつつあるという見方があります。笹間地区で行っている陶芸フェスティバルやアーティストインレジデンスを通して、外国人の日本文化へのニーズの高まりを感じます。

一方で、東京や京都などの大都市の情報に比べ地方都市の情報を手に入れることは難しく、実際に訪れるまでこんなに魅力的な地域があることを知らなかったとの声も多々聞きました。今後のインバウンドビジネス、特にニーズの高まりつつある中山間地域においてどのような対応をしていくのかお聞かせください。

(1)長期滞在型へと変わりつつある現在のインバウンド市場に対し、島田市はどのような対策をされていますか。

(2)また外国人観光客は日本人と比べ島田市に対する知識は少ないと思うのですが、誘致するためには他地域と差別化し、島田市の魅力をわかりやすく伝える必要があると思えます。他地域にはない島田市の魅力となり得るものに関してどのようにお考えですか。

実際に笹間地区を訪れた外国人にヒアリングをしたところ、古民家や山村文化などに大変興味を示されました。

(3)このように今まで観光資源とはされていなかった地域資源を新しい視点で活用することに関し、どのようにお考えでしょうか。

以上で質問を終わります。よろしくお願いいたします。

[2番 道川綿未さん発言席へ移動]

○議長(仲田裕子議員) 染谷市長。

[市長 染谷絹代登壇]

○市長(染谷絹代) では、道川さんの1の(1)の御質問からお答えをいたします。島田市では、人口減少や少子化対策などの課題解決のために、首都圏で生活する30代から40代の子育て世代をター

ゲットに絞り、田舎暮らしのよさや島田市の独自政策などをPRする中で移住・定住の政策を推進しております。そうした中、単に移住者を増やすだけでなく、地域や人を磨き、移住者に選択される地域や人づくりを行うことで移住者を呼び込み、先輩移住者が次の移住者を呼び込むことができるような、移住者が地域住民等との活動を通して輝きを増しながら地域に貢献できる魅力のある地域づくりを目指しております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。島田市、特に中山間地域の田舎に移住し、そこで生活するためには、まず地域性や人間性などを含めて地域のコミュニティ活動等を知っていただくことが必要不可欠であると考えております。現在、島田市では川根地区への移住希望者を対象に1泊2日の移住体験ツアーを開催し、地域住民や先輩移住者のほか、地域おこし協力隊との懇談等を通して、できるだけ移住後の生活イメージやコミュニティ活動がスムーズに行えるような場の調整に努めております。移住前から地域イベントや地域活動に参画していただくことにより、移住者を地域として温かく迎え入れるような体制づくりを支援してまいりたいと考えております。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。1の(1)の御質問でもお答えいたしましたが、現在、島田市では移住者が次の移住者を呼び込むまちづくりを視野に入れて、次期総合計画の策定作業に取り組んでまいりたいと考えております。特に今後のまちづくりには移住者の意見も大切であると思います。もともと島田市に住んでいる人にとって当たり前なことでも、移住者目線からすれば非常に新鮮な感覚であったり、あるいは新たな地域資源の発掘につながったりすることもあります。そのため、新たな取り組みとして今回の第2次島田市総合計画策定作業には川根地区に移住された方を策定委員として委嘱し、移住者の目線で御意見をいただき、今後のまちづくりを

進めていきたいと考えております。

また、地域おこし協力隊が移住者目線で制作した「住んでごしまだ」のウェブサイトなども活用する中、移住者のまちづくりに関する取り組み事例や地域おこし協力隊の活動紹介をしてまいりたいと考えております。

次に、2の(1)の御質問についてお答えをいたします。今後のインバウンド市場につきましては、ツアーの団体客から個人客にシフトしていくものと認識しております。現時点ではそうしたインバウンドの個人客の誘客を図るためには、ゴールデンルートの通過点となっている当地域をいかに知ってもらい、来てもらい、地域にお金を落としてもらうかを念頭に置いて、広域連携による観光プロモーションに取り組んでおります。また、島田市や島田市観光協会のホームページの多言語化など外国語による情報発信にも努めております。

次に、2の(2)の御質問についてお答えをいたします。外国人観光客の誘致において島田市の地域性を生かし、他地域との差別化を図ることは大変重要なことであり、ここにしかない資源を情報発信していく必要性を感じております。中山間地域には日本の原風景と言える農山村の景観やそこに住む人たちの温かさやぬくもり、地域に伝わる独特の食など外国人観光客にとって大変魅力的な要素がたくさんあるものと認識しております。現在、島田市では島田市緑茶化計画をブランドメッセージとして国内外に情報発信をしております。島田市の持つお茶文化や東海道の宿場町としての歴史文化とともに、こうした中山間地域の魅力を積極的に発信してまいりたいと考えております。

次に、2の(3)の御質問についてお答えをいたします。川根地区や伊久身地区のような中山間地域において古民家や山村文化を活用して長期滞在希望する外国人や都会暮らしの日本人のニーズに応えていくことは、新たな観光資源になると思われれます。しかし、実施に向けては地元の意向や所

有者の理解など地域を巻き込んでの体制づくりが課題であると認識をいたしております。今後、国内での先進事例を研究し、島田市における取り組みについて検討していきたいと考えております。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いをいたします。

○議長（仲田裕子議員） 道川綿未さん。

○2番（道川綿未さん） 御答弁ありがとうございます。引き続き移住・定住に関して再質問をさせていただきます。

移住者の中には、例えば農作物のデザインや販売の仲介のように、移住先の地域住民と関わったことを仕事にしたいという人もいます。そのような場合の地域住民と移住者をつなぐような仕組みづくりなどは島田市としてできないでしょうか。

○議長（仲田裕子議員） 杉村地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（杉村嘉弘） それでは、道川さんの移住者と地域住民をつなぐ仕組みづくりに関する再質問にお答えをいたします。島田市では、移住者からの相談窓口につきましては現在、地域づくり課が担当させていただいております。今までも移住者と地域住民との多種多様なさまざまな相談につきましては、ケース・パイ・ケースで個別の対応をまいりました。今後も連絡・相談等をいただきたいと思います。

また、ビジネスに関しましては今年4月からですが、島田市、島田商工会議所、島田市商工会、島田信用金庫の4者で連携をしまして企画運営をしております島田市産業支援センターおびサポがごございます。こちらのほうを御利用いただきたいと思います。

なお参考までにですが、6月末までに販路開拓補助金、創業・起業支援などに関する相談としまして759件の対応をさせていただいております。ぜひこちらのほうも積極的に御利用いただきたいと思います。

と思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（仲田裕子議員） 道川綿未さん。

○2番（道川綿未さん） 昨年、川根地区で開催された川根ワールドフォーラムで、藻谷浩介さんが講演された際に、空き家問題の最大の課題は、空き家ではあっても、実際には貸し出さない、売りに出さない空き家が多くあることだとおっしゃられていました。その点に関しまして、島田市としてはどのようにお考えでしょうか。また、何か対策などをしていましたら教えてください。

○議長（仲田裕子議員） 杉村地域生活部長。

○地域生活部長兼支所長（杉村嘉弘） それでは、道川さんの空き家等の対策に関する再質問につきましてお答えをさせていただきます。昨年度、平成27年度から川根地区での空き家バンク制度をスタートさせて、それから、引き続き今年6月からは、地域おこし協力隊が移住者目線で制作をしております「住んでごしまだ」というウェブサイトの中で民間の不動産事業者との連携をしまして、市内全域に範囲を広げました不動産バンク事業をスタートさせております。現在のところ、不動産バンクの登録件数につきましては30件、このうち川根地区の登録件数につきましては5件となっております。

それから、川根地区の物件登録業務は、地元のNPO、それから地域おこし協力隊に依頼をしております。登録件数の増加に努めておりますけれども、道川さんからの御指摘のとおり空き家が点在するにもかかわらず、登録件数は増えておりません。この理由につきましては、例えば空き家で法事などの利活用が予想されるため、また完全な空き家でなかったり、完全な空き家であったとしても、仏壇や家具等が存在をしているということが理由として考えられます。7月には新規で2件の空き家登録候補の報告があります。現在、家主との交渉・登録手続を進めておりますけれども、今後もNPO、それから地域おこし協力隊とも協

力をしまして、地道な交渉を粘り強く行い、登録件数の増加に努めてまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

以上です。

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） この空き家の問題は今後の日本社会ですごく大きな社会問題になってくると思っております。今、団塊の世代の方たちは全国的に見て約88%の方が持ち家を持っておられます。団塊世代ジュニアの方も6割強の方が持ち家を持っておられます。しかも、親御さんが地方に、そして団塊ジュニアの方たちが首都圏になど住んでおられますと、親が亡くなった後のその家というものは、なかなか子供が戻ってきて住むということでもございませんし、売れるものなら売りたいけれども、それもなかなかとなってきますと、放棄空き地、放棄宅地、放棄住宅というものが増えてきて、2030年にはそれが約3割に達するのではないかというような統計上の調査もございます。そうした中、島田市においてこの空き家の利活用をどうしていくかということも大変大きな課題でございます。中山間地の空き家、そして市街地における空き家、これは少しすみ分けしまして、これから空き家対策をしっかりやってまいりたいと思っております。

ちなみに、「住んでごしまだ」は首都圏に住む方たちには大変好評でして、有楽町の移住定住センターに私も月に何回か伺いますけれども、そのたびごとにウェブサイトを見て島田市にと行って来てくださるお客様がいらっしゃると伺っております。

○議長（仲田裕子議員） 道川綿未さん。

○2番（道川綿未さん） ありがとうございます。引き続きまして、観光に関しての再質問をさせていただきます。今年の春にイギリス人の方が1週間ほど笹間地区の民家に滞在し、お茶刈りの手伝いや地域の人との交流をされました。その際、歴

史や郷土文化、お茶の仕組みなどに大変興味を持たれていました。従来の観光のように買う・見る・楽しむだけでなく、学ぶ・体験するなどがキーワードになると思いますが、そのようなことをプログラム化した新しい形の観光は可能でしょうか。

○議長（仲田裕子議員） 北川産業観光部長。

○産業観光部長（北川雅之） 道川さんの観光に関する再質問にお答えをさせていただきます。島田市が持つ地域資源を生かしまして、観光資源として磨き上げていくことが、着地型、また滞在型観光といった長期滞在型の観光につながっていくものと考えております。そうした意味では、茶業をはじめとした農業体験をプログラム化して長期の滞在につなげることは、新しい観光の形として必要なことであるというふうに認識をしております。ただし、市長答弁でもお答えをさせていただきましたように、実施に当たりましては農家の方の受入体制が必要となってまいります。外国人を受け入れてみたいというような意欲をお持ちの方がおられましたら、積極的に支援をしてまいりたいというふうに考えております。

○議長（仲田裕子議員） 道川綿未さん。

○2番（道川綿未さん） ありがとうございます。古民家や山村文化を観光資源とする際、観光だけではなく、農業や文化などほかの分野との関わりが出てきますが、そのように複数の課をまたがる際の行政の受け皿体制はどのようにお考えでしょうか。

○議長（仲田裕子議員） 北川産業観光部長。

○産業観光部長（北川雅之） 例えば、空き家対策につきましては地域づくり課、それから観光客の誘致につきましては観光課、農業に関することについては農林課、また地域文化や伝統芸能に関することは文化課といったように案件により最初に対応する窓口は異なってまいります。ただし、関連することがありましたら、市役所関係課による

横断的な連携を図って対応していきたいというふうに考えております。

○議長（仲田裕子議員） 道川綿未さん。

○2番（道川綿未さん） ありがとうございます。

島田市に移住をしてきてから、自然や文化、歴史、食などの地域の資源はもとより、何よりも島田市で暮らす人々が魅力的だと感じるが多々あります。この魅力は、市民はもとより市外の方にも一人でも多く知って感じてもらうためにも、今までの物差しに加え女性の視点や外からの視点を加えていただき、島田市の魅力の発信、発掘を続けていっていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございます。